

対馬高等学校

築城 ひかりさん
(普通科2年生)

増田 優唯さん
(商業科2年生)

福島 暁志郎さん
(国際文化交流科2年生)

対馬市内には4つの県立高校があります。それぞれの学校では、日々の学習だけでなく、学校の個性にあわせた様々な「学び」が行われています。

今回の特集では、それぞれの学校に通う生徒の皆さんに、自分たちの通う学校での生活についてお話を伺いました。

虹の原特別支援学校高等部
対馬分教室

荒木 陸斗さん
(3年生)

荒木 秀平さん
(3年生)

豊玉高等学校

作元 葵さん
(2年生)

松村 美乃里さん
(1年生)

上対馬高等学校

神宮 愛香里さん
(2年生)

下田 穂花さん
(2年生)

齋藤 大輔さん
(1年生)

四校十色

各校の生徒さんへの
インタビューは
6.7ページに掲載





長崎県立対馬高等学校

創立 120 周年を迎えた県内屈指の伝統校



明治時代に創立された旧制対馬中学校と対馬高等女学校を前身に持つ対馬高校は、令和元年度から普通科、商業科、国際文化交流科の、3つの学科を持つ対馬市内では最も大きな学校となりました。また、島内のみならず離島留学制度を活用し、島外からも生徒が集まっています。

平成27年には、ユネスコスクールに加盟し、ESD(持続可能な開発のための教育)によって地域現状と課題を発見し、課題の解決に向けた学びを取り入れ、対馬が持続可能な地域となるべく、学校の外とつながりながら、実践的な活動を行っています。



長崎県立虹の原特別支援学校高等部対馬分教室

生まれ育った対馬で「生きる力」を培う



平成24年に対馬高校の一角に誕生した対馬分教室には、現在11人の生徒が在籍しています。分教室が設置される前は、特別支援学校に通うために対馬を離れる必要があり、生徒や家族の負担となっていました。

特別支援学校は「社会自立」を目的としています。卒業後、自立的でより豊かな社会生活を送ることができるよう、日常生活の指導や体験活動、実生活と関連付けた教科の学習などが行われています。対馬に分教室があることで、島内での就業など、将来対馬で生活するという選択肢も広がっています。



長崎県立豊玉高等学校

様々な立場や手段で学校生活をサポート



豊玉高校は「関わる力、日本一 豊玉高校」をキャッチフレーズに、教職員だけでなく、地域の方々も積極的に学校に入り、生徒の学校生活をサポートしています。また、今年度から「長崎県遠隔教育センター」が開設され、豊玉高校が遠隔授業の受信校になりました。大村市にあるセンターと学校をオンラインで結び、それぞれの進路に応じた授業を行うことで、学びの選択肢が拡大し、生徒の要望に、よりきめ細やかに対応することが可能となりました。



長崎県立上対馬高等学校

地域の実情に合わせた取り組み



「放課後も休日も、学校で自主学習ができ、先生たちが質問に答えてくれる。」約20年前、地域に学習塾などが無く、進学の大難しさが生徒数の減少理由に挙がっていた時にスタートした進路実現システムによって、進路の幅は大きく広がりました。希望する7割以上の生徒が国公立大学に進学する年もありました。生徒に寄り添いながら、地域の実情に合わせた取り組みは今後も進み、来年度からは日常会話ができる語彙力を育む韓国語の学びがスタートするほか、長崎鶴洋高等学校と連携し、水産業について学ぶ機会を作る検討が行われており、地域が求める人材の育成も行っています。

対馬高等学校



こうしろう
福島 暁志郎さん
(国際文化交流科2年生)

Q なぜ対馬高校に？

諫早市から離島留学制度を使って対馬にやってきました。初めての対馬で親元を離れての下宿生活にとっても不安だったのですが、クラスの人たちが声をかけてくれていつの間にか不安はなくなりました。女子が多いクラスですが、皆仲が良いです。部活はバレー部に所属しています。対馬でできた仲間が、自分の居場所として作ってくれた大切な場所です。将来は、通訳士になって家族を外国に連れて行きたいと思っています。



部活は仲間と過ごす大切な時間



ゆい
増田 優唯さん
(商業科2年生)

Q なぜ対馬高校に？

対馬の高校で、就職に有利な資格がとれるということで商業科を選びました。商業科目は、初めて見たり聞いたりする言葉がたくさんあって、難しいですが、目指す道が同じ仲間がいるのでとても集中して学ぶことができています。

資格の試験も多く、試験勉強も頻繁にあるのですが、合格した時の達成感が続ける原動力になっています。



電卓は商業科の必需品です！

Q 学校でお気に入りの場所は？

吹奏楽部なんですけど、練習している音楽室がお気に入りの場所です。



築城 ひかりさん
(普通科2年生)

Q なぜ対馬高校に？

対馬で一番大きな学校で、人数がたくさんいるので切磋琢磨できると思いました。人数が多い分、行事などはとても盛り上がります。体育祭や文化祭など、準備に1か月ほどかけるのですが、本番は一瞬。本番に向けて、多くの人たちが一つにまとまっていく感じが好きです。

Q どんな学校ですか？

自分の頑張り次第で、島外の高校と同じようにやれる、そして、先生や学校が支えてくれる。先生は、勉強はもちろん色々な話を聞いてくれますし、生徒同士でもアドバイスをしあえたり、とても風通しの良い学校だと思います。



今年の体育祭も心ひとつに！

虹の原特別支援学校高等部対馬分教室



荒木 陸斗さん
(3年生)

Q 学校で楽しい時間は？

体育で、朝から運動するのが楽しいです。体力づくりなど、仲間と一緒に活動できるのが良いです。学校では、生徒全員が同じ教室で授業を受けることもあるのですが、集まって色々やれるのが楽しいですね。



興味や適正に合わせて現場実習へ向かう

Q 将来に向けて

卒業後に向けて、現場実習なども行うのですが、私は介護の仕事に興味があり、現場実習でも車いすの方のお世話をしました。将来は介護の現場で働けたらと思っています。



荒木 秀平さん
(3年生)

Q 学校で楽しい時間は？

職業という科目があって、一番楽しい時間です。トートバッグを作ったのですが、布から切り出して作るときは、買う人が喜んでる姿を思い浮かべながら作り、実際、文化祭で売った時に、お客さんが嬉しそうに買ってくれたので、ドキドキしたけどとても嬉しかったです。



一つ一つ心を込めて作る

Q 学校生活について

対馬高校と校舎が一緒なので、1年生の頃は、大人数を前に緊張しました。2年生からはすっかり慣れましたが(笑)玄関には、卒業生が作ってくれた学校の看板があって、僕たちここにいます!という感じがしてすごく好きな場所です。

豊玉高等学校



作元 葵さん
(2年生)

Q 豊玉高校のここが好き！

周りの人たちからは、生徒数が少ないと学校生活が楽しくないと思われがちなのですが、そんなことは全くなくて、毎日すごく楽しいです。私は日本史の授業が特に好きで、先生との距離が近くて楽しいです。部活も、学年関係なく少ない人数で集中して練習できます。

Q 地域の人たちから愛される学校

高総体の壮行式の後や強歩大会の後には、保護者や地域の人たちがカレーや豚汁などを作ってくれて、愛されている学校だなと感じています。



楽しい雰囲気の中、集中して取り組む



松村 美乃里さん
(1年生)

Q 豊玉高校のここが好き！

一言で「楽しい」ことです。私は中学の時に生徒会長になりたかったけどできなくて。そんな時に豊玉高校のことを知りました。一人一人のことを輝かせてくれる豊玉高校なら、自分が思い描く、周りをリードできる存在に近づけるのではないかと入学しました。

クラスは少人数ですが、毎日、クラスの女子3人(全員)とご飯を食べたり、音楽室からの景色を楽しんだり、学校に通うのが楽しくて、土日も、長期休みも、毎日学校に行きたいくらいです。



いつものメンバーで会話も弾む

上対馬高等学校



神宮 愛香里さん
(2年生)

Q どんな学校？

勉強したいという思いに先生たちが向き合ってくれて、放課後や土日も学校に行ったら先生に質問できたり、オンライン学習会などを開いてくれたりして、すごく手厚くサポートしてくれる学校です。生徒も少人数ですが、学年問わず仲がいいのも特徴です。

地域の行事にも積極的に参加し、国境マラソンでは、競技に参加したり、ボランティアとして運営に協力したりすることで、地域との一体感を強く感じています。



地域の盛り上げ役として積極的に参加



齋藤 大輔さん
(1年生)

Q なぜ上対馬高校に？

兄と姉が上高生だったこともあり、先生が、生徒一人一人に向き合ってくれるということを聞いていて、いいなと思って進学しました。入学してすぐ体育祭だったんですが、3年生の先輩がフォローしてくれて、とても尊敬し、入学してよかったと感じています。

先生は、親身になって向き合ってくれるのですが、勉強だけでなく、いろんなことに関わってくれ、私が所属する陸上部では、練習の終わりに顧問の先生も一緒になって腹筋100回してくれます。



きついけれども楽しい時間



下田 穂花さん
(2年生)

Q 上高ならではのことは？

探究学習で、対馬のことを調べるのですが、今まで知らなかった対馬のことを知ることができ、とても楽しいです。フードロスや獣害の問題など、良いことも問題も、対馬の新たな一面を知ることができる良い時間だと思います。また、私はバレー部なんですけど、2人しかおらず、他校との合同チームになります。その時、活躍できるように日ごろからコツコツと練習することも、上高ならではのかもしれません。



日頃の練習の成果を発揮